

高千穂夜神楽：概要

高千穂神社と、高千穂の土地では、夜神楽という愛される伝統があります。夜神楽とは、日本の建国神話や、太陽の女神である天照大神や芸能の女神である天鈿女などの神々に関する、神道の儀礼的演目のことを言います。

天照大神は世に光を与え、日本人の日常生活に欠かせない食べ物である米の成長を促します。天鈿女は魅力的な舞を見せ、太陽の女神を洞窟から連れ出し、再び世界は光に照らされるようになりました。この舞は、後に神聖な演目である神楽（文字通り「神を楽しませる」）になりました。

高千穂の夜神楽は、守護神である氏神様や諸々の神々に祈願するために日没（夜神楽の「よ」は日本語で夜を意味する）から日の出まで、11月中旬から2月上旬にかけて行われます。

それぞれの村が独自のスタイルで、33の神話を様々に解釈した舞で演じます。

高千穂神社では神楽殿で4つの主要な演目を一年を通して、8時から9時まで行っています。天岩戸神話に基づく、手力雄（たちからお）、鈿女（うずめ）、戸取（とり）の舞。夫婦が酒を飲み、豊作・幸せな結婚・子宝を祈って神々に米を捧げるといふ、御神体の舞。

国内外の観光客にとって、演目に出てくる夫婦が観客を引き込み楽しませる最後の舞は特に忘れられないものとなるでしょう。

地元の職人が手作りした華やかな面と色とりどりの衣装もまた、魅力的です。

高千穂神社の舞台上で神聖な演目を観ることで、日本の文化・神話・工芸についての貴重な洞察を得られることでしょう。